

実践事例3 【掲示物の工夫】

かけ算 [1]

学習の足跡としての掲示物

確かな力をつけるための掲示物

かけ算の意味を導入する場面

ねらい：具体的な場面を調べたり、具体物を用いたりして、「1つ分の大きさのいくつ分」という意味を理解する。

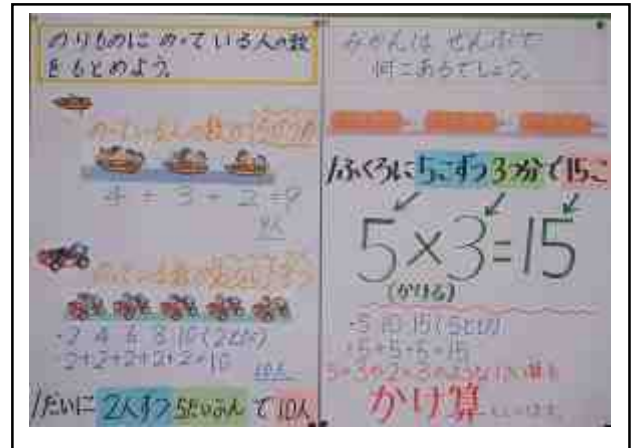
掲示物のねらい

H15年度に3年生を担当したところ、

「1つ分の大きさのいくつ分」がよくわかっていない子が多く、立式をする時に $2 \times 5 = 10$ なのか $5 \times 2 = 10$ なのか間違えてしまうことが多かった。

そこで、今年度は、子どもたちにはかけ算の意味をしっかりとおさえたいと考えた。

そこで、「1つ分の大きさのいくつ分」がよくわかるものを掲示しておくことにした。



確かな力を付けるための掲示物

2のだんの九九の構成

ねらい：1つ分の大きさが2のとき、そのいくつ分かについて全体の数を求め、2の段の九九を構成することができる。また「九九」の用語を知り、その意味が理解できる。

掲示物のねらい

2の段の九九を構成した次時に、2の段の習熟を行う。その場面でも九九の唱え方を書いたものと、構成の時の具体物を並べたものをあわせたものを用意することで、前時の九九の構成と乗法九九が「1つ分の大きさのいくつ分」かわかった上で、その2つがつながるように意識した。



確かな力を付けるための掲示物

5のだんの九九の構成

ねらい：5のいくつ分かの大きさを求めて、5の段の九九を構成することができる。

掲示物のねらい

1年生のときに学習した5とびを使ってもらえるということや「5を袋の数だけたしていく」ことや「5のいくつ分で考えること」を位置付ける。また、2の段とつなげて掲示することで子どもたちに九九を順に構成して行くという意識付けをしていく。



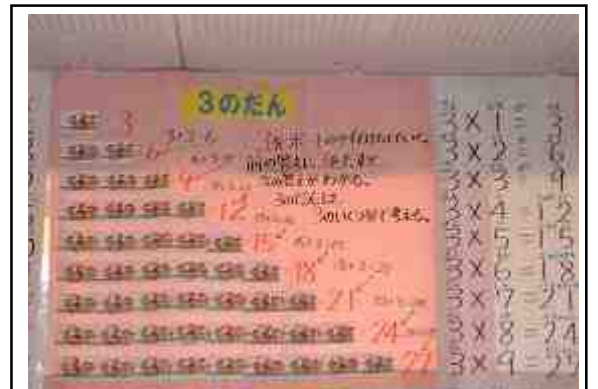
確かな力を付けるための掲示物

3のだんの九九の構成

ねらい：3のいくつ分の大きさを求めて、3の段の九九を構成することができる。また、「かけられる数」「かける数」の用語を知り、それらの意味が理解できる。

掲示物のねらい

H Yさんが見つけた「前の答えに3をたす」というやり方を掲示に位置付けた。このやり方を価値付けたため、自信をもって説明することができるようになった。さらに、このやり方を進んで次時からやる子が増えてきた。



確かな力をつけるための掲示物

4のだんの九九の構成

ねらい: 一つ分の大きさが4のとき、そのいくつ分かについて求める活動を通して、乗数が1増えると積は4ずつ増えることに気付き、4の段の九九を構成することができる。

掲示物のねらい

3のだんのやり方と同様に九九を構成していきけるという意識は子どもの中で

